

日本言語政策学会2022年度特定課題研究会
「日本の言語と法政策—言語に関する法政策／法政策の中の言語」

「ヘイトスピーチをめぐる言語と法」公開シンポジウム 開催のお知らせ

日本言語政策学会2022年度特定課題研究会「日本の言語と法政策—言語に関する法政策／法政策の中の言語」（代表・杉本篤史）は、このたび下記の次第で公開シンポジウムを開催することになりました。みなさまのご参加をお待ちしています。

開催日：2022年10月15日（土）午後1時～5時 ZoomによるWEB開催

対象：どなたでもご参加いただけます（参加費は無料です）

参加申込：Googleフォーム（下記URLまたは右のQRコード）
からお申込みください

<https://forms.gle/dq1cNrsRPWDk8twr9>



申込締切：2022年10月8日（土）

※お申込みいただいた方に、ZoomのID等を10月12日ごろメールにてお知らせします。

【開催趣旨】

本特定課題研究会では、そのタイトルの通り、言語に関する法政策と法政策における言語の双方の視点から問題を立体的に浮かび上がらせるために、社会言語学・法と言語・日本語教育学・国語教育学・法律学・批判的言説分析からなるメンバーで様々な研究を行ってきました。このたび、表題のシンポジウムを行うにあたり、前半では、ヘイトスピーチについて研究されてきた4人のパネリストに、それぞれの立場からご発表いただきます。それを受けて後半では、本研究会メンバーのディスカッサント3人をまじえて、相互に質疑応答・意見交換を行う予定です。フロアからも積極的に議論にご参加いただき、ヘイトスピーチ研究とその課題について、互いに理解を深められる場にしたいと考えています。

当日スケジュール（予定）

- 趣旨説明（杉本篤史・東京国際大学）
- パネリスト報告（各30分） ※発表タイトルは仮題です
 - 「法と言語の課題としてのヘイトスピーチ」橋内武（桃山学院大学）
 - 「政治選挙の衣をまとった日本型ヘイトスピーチの問題」韓娥凜（桃山学院大学）
 - 「ヘイトスピーチの法規制」金尚均（龍谷大学）
 - 「ドイツの排外主義—ペギーダに集う人たちは」中川慎二（関西学院大学）
- 休憩（15分）
- パネルディスカッション（司会：杉本篤史）
ディスカッサント：札埜和男（龍谷大学）・岡本能里子（東京国際大学）
小田格（中央大学）

パネリストご紹介

※氏名・所属・専門分野・関連著作論文等

橋内武（はしうちたけし）桃山学院大学名誉教授・社会言語学/法と言語
「ヘイトスピーチの法と言語」『社会言語科学』20巻2号（2018）
『ディスコース—談話の織りなす世界』くろしお出版（1999）

韓娥凜（はんあるん）桃山学院大学・社会言語学/批判的言説分析
「第2章 ヘイトスピーチに見られる『言葉のお守り』—排外主義団体の選挙演説の分析から—」名嶋義直（編著）『リスクコミュニケーション 排除の言説から共生の対話へ』明石書店（2021）

金尚均（きむさんぎゅん）龍谷大学・刑法学
『差別表現の法的規制：排除社会へのプレリュードとしてのヘイト・スピーチ』法律文化社（2017）
『ヘイト・スピーチの法的研究』法律文化社（2014）

中川慎二（なかがわしんじ）関西学院大学・ドイツ語教育/異文化間コミュニケーション
「第5章 常態化したヘイトスピーチの恐怖—コミュニケーション・ジャンルからの考察」中川慎二・河村克俊・金尚均（編著）『インターネットとヘイトスピーチ 法と言語の視点から』明石書店（2021）

ご参加にあたってのお願い

- 当日はZoomミーティングを使用します。Zoomアプリやネット環境に関する不具合については当方では対応いたしかねます。また、ミーティング参加前に必ずZoomアプリの更新（アップデート）がないかご確認ください。
- Zoom画面の撮影・録画やスクリーンショットは固くお断りします。パネリスト発表の要旨や参考文献等は、別途Zoomのチャット機能を利用して当日配布いたします。
- 本シンポジウムの進行を妨害するような言動や、ヘイトスピーチがなされた場合、Zoomミーティングへの参加を途中で遮断するなどの措置を取らせていただくことがあります。
- 本研究会の内部で使用する目的で、本シンポジウムはZoomの録画機能により録画いたします。あらかじめご了承ください。公開はいたしません。
- 当日の質疑応答にはSlidoを使用する予定です。